

[First Hit](#) [Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)☐ [Generate Collection](#) [Print](#)

L1: Entry 18 of 20

File: DWPI

Nov 5, 1976

DERWENT-ACC-NO: 1976-95429X

DERWENT-WEEK: 197651

COPYRIGHT 2007 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Film which transmits light selectively - comprises metal oxide film on alkyl methacrylate copolymer film and is useful for greenhouse construction, etc.

PATENT-ASSIGNEE: MITSUBISHI RAYON CO LTD (MITR)

PRIORITY-DATA: 1975JP-0051719 (April 28, 1975)

[Search Selected](#)[Search ALL](#)[Clear](#)

PATENT-FAMILY:

	PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/>	JP 51127181 A	November 5, 1976		000	
<input type="checkbox"/>	JP 84046785 B	November 14, 1984		000	

INT-CL (IPC): A01G 13/02; B32B 15/08

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 51127181A

BASIC-ABSTRACT:

Selectively light transmitting films comprise polyalkyl methacrylate type copolymer films as the base material, and are prepd. by forming a film layer consisting of metal oxides (of tin, indium, cadmium, antimony) transmitting $\geq 30\%$ of light of 0.4 to 0.7 μ m in wavelength and reflecting $\geq 20\%$ of light of 2 to 10 μ m in wavelength on ≥ 1 phase of copolymer films formed by copolymerizing 26 to 97 wt. % of alkyl methacrylates contg. 1-4C alkyl, 3-74 wt.% of alkyl acrylates having 1-8C alkyl and 0-40 wt.% of copolymerizing monomers (methacrylic acid, acrylonitrile, styrene, etc.). The films are useful for agricultural greenhouses, or covers for solar water heating devices.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 51127181A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

DERWENT-CLASS: A14 A94 P13 P73

CPI-CODES: A04-F06E; A11-C04B; A12-H; A12-R; A12-S06B; A12-W04;

[Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)



(A000)

特 許 願 (1)

昭和 50 年 4 月 28 日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 発明の名称 光選択透過性フィルム
2. 発明者 広島県佐伯郡大野町 908 の 210
佐藤 安 (ほか 2 名)

3. 特許出願人

〒104 東京都中央区京橋 2 丁目 8 番地
電話 (272) 4321 (大代表)

(603) 三菱レイヨン株式会社
取締役社長 金澤 脩 三郎

4. 代理人

〒104 東京都中央区京橋 2 丁目 8 番地
三菱レイヨン株式会社内

(6949) 弁護士 吉沢敏夫 郎

5. 添付書類の目録

- | | |
|----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |

明 細 書

1. 発明の名称

光選択透過性フィルム

2. 特許請求の範囲

アルキル基中の炭素原子数が 1~4 個である
メタクリル酸アルキルエステル 26~77 重量
多、アルキル基中の炭素原子数が 1~8 個であ
るアクリル酸アルキルエステル 3~74 重量多
およびこれらと共重合可能な他の単量体 0~40
重量多なる範囲で共重合して得られる共重合体
のフィルムの少なくとも一面に波長 0.4~0.7
μ の光を少なくとも 30% 透過し、かつ波長 2
~10 μ の光を少なくとも 20% 反射する金属
酸化物の薄膜層を設けたことを特徴とする光選
択透過性フィルム。

3. 発明の詳細な説明

本発明は光選択透過性フィルムに関するもの
であり、更に詳しくはポリアルキルメタクリレ
ート系共重合体フィルムを基材フィルムとし、

⑨ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 51-127181

⑬公開日 昭51. (1976) 11 5

⑭特願昭 50-51719

⑮出願日 昭50. (1975) 4. 28

審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

7139 37
7519 21

⑯日本分類

259A3
2 B11

⑰Int. Cl²

B72B 15/08
A01G 13/02

波長 0.4~0.7 μ の可視光線の 30% 以上を透
過し、波長 2~10 μ の赤外線線の 20% 以上を
反射する特性を有する光選択透過性フィルムに
関するものである。

従来ポリ塩化ビニル樹脂、ポリエチレン樹脂
などに光線の選択吸収物質を混合した後フィル
ム状に成形したもの或いはこれら樹脂フィルム
表面に光線の選択透過性物質を塗布したものが
光の選択透過性フィルムとして農業用をはじめ
とする幾多の分野で利用されている。例えばポ
リ塩化ビニル樹脂に光線の可視部の選択透過性
物質を混合しフィルム状に成形したものは植物
育成に適した波長の光のみを透過せしめ他の波
長領域の光をカットし植物の育成を促進させう
るフィルムとして農業ハウス用フィルムとして
その利用が試みられている。また紫外部に選択
吸収を有する物質を混合又は塗布したフィルム
は紫外線カットフィルムとして紫外線により劣
化を起し易い樹脂成形物の表面に貼り合わせ樹
脂成形物の耐候性を向上させる等の用途に用い

られているがこれまで開発されたいずれの方法によつて作られた光選択透過性フィルムもその耐久性に乏しいため上記種々の用途においてその使用初期においては光線選択吸収物質の特性によりその効果のある程度発揮し得るが長期間屋外使用する際にはフィルムの耐候性が極端に低下しその機能を充分発揮できない欠点を有している。

そこで本発明者らはかかる現状に鑑み上記した如き欠点のない光選択透過性フィルムを作るべく検討中のところ特定組成割合のポリアルキルメタクリレート系共重合体フィルムを基材フィルムとしこの少なくとも一面に各波長における光の選択透過性を有する金属酸化物の薄膜層を設けることにより上記目的を達成しうる光選択透過性フィルムとし得ることを見出し本発明を完成した。

本発明の要旨とするところはアルキル基中の炭素原子数が1〜8個であるメタクリル酸アルキルエステル26〜77重量%、アルキル基中

の炭素原子数が1〜8個であるアクリル酸アルキルエステル3〜74重量%およびこれらと共重合可能な他の単量体0〜40重量%なる範囲で共重合して得られる共重合体のフィルムの少なくとも一面に波長0.4〜0.7μの光を少なくとも30%透過し、かつ波長2〜10μの光を少なくとも20%反射する金属酸化物の薄膜層を設けたことを特徴とする光選択透過性フィルムにある。

本発明において用いられる基材フィルムとはアルキル基中の炭素原子数が1〜8個であるメタクリル酸アルキルエステル26〜77重量%、アルキル基中の炭素原子数が1〜8個であるアクリル酸アルキルエステル3〜74重量%およびこれらと共重合可能な他の単量体0〜40重量%なる範囲で共重合して得られるランダム共重合体、グラフト共重合体、ブロック共重合体等をTダイ法、インフレーション法、加圧成型法等の通常の成型法により成型して得られる可視光線に対する透過性および耐候性の良好なる

ポリアルキルメタクリレート系共重合体フィルムである。

本発明において用いられる基材フィルムを構成する共重合体中のメタクリル酸アルキルエステルおよびアクリル酸アルキルエステルに対し共重合可能な他の単量体としてはメタクリル酸、イタコン酸のジアルキルエステル、アクリロニトリル、メタクリロニトリル、塩化ビニリデン、塩化ビニル、スチレン、オルト、メタ、パラメチルスチレン、α-メチルスチレンなどが好適に用いられる。

上記共重合体の組成および構造は基材フィルムに要求される性質によつて種々変化させることができるものである。また本発明の特徴である基材フィルムと金属酸化物の薄膜層との密着性および基材フィルムの耐候性は上記共重合体を製造する際の単量体の性質に帰因するものであつて上記共重合体組成の範囲内においては各単量体の割合に依存しないものであるが、共重合体中のアクリル酸アルキルエステルの割合が

3重量%未満では得られるフィルムが脆くなり成形加工上に問題を生じ実用に供し得ない。またアクリル酸アルキルエステルの割合が74重量%を超える場合には得られるフィルムが軟弱となり、機械的強度の低下をきたす。しかも共重合体中のアクリル酸アルキルエステルの割合が上記範囲外のものにおいては特に基材フィルムと金属酸化物の薄膜層との密着性が極端に低下し良好なる光選択透過性フィルムとすることができなくなる。

本発明において基材フィルムの少なくとも一面に設けられる光選択透過性を有する金属酸化物の薄膜物質としては酸化錫、酸化インジウム、酸化カドミウム、酸化アンチモンなどの金属酸化物またはこれらの金属酸化物に微量のドーパントを含有したものが用いられる。

本発明を実施する際に基材フィルムの少なくとも一面に光選択透過性を有する金属酸化物の薄膜を形成する方法としては酸化物となり得る金属をフィルムの一面に予め常法により真空蒸

着し金属蒸着薄膜を形成した後酸化性雰囲気
で酸化処理を行なうか、あるいは金属蒸着薄膜を
形成した後陽極酸化が進行するような適当な溶
媒中で陽極酸化を行なうか、さらにはカソード
金属として銅、インジウム、カドミウムなどを
用い酸素を含む稀ガス中でスパッタリングを行
なうことによつて各種金属酸化物薄膜を形成さ
せる方法などを適宜用い得る。また場合によつ
ては適当な溶媒を用いて溶解又は分散させた後
フィルム上に塗布し薄膜とすることができると
更にこれを後処理し希望とする特性を得ること
ができる。また、これら金属酸化物薄膜層の形
成はフィルムの片面のみならず、その両面に形
成することもでき、所望によつてフィルムの両
面に同種又は異種の金属酸化物の薄膜層を形成
すればよい。

本発明において基材フィルムとして用いられ
るポリアルキルメタクリレート系共重合体フィ
ルムはこの組成の効果によつて金属酸化物薄膜
との密着性が極めて優れており何ら部処理する

ことなく優れた光選択透過性フィルムとするこ
とができるがさらに基材フィルム表面に酸化処
理、アンカーコート処理を施すことにより基材
フィルムと金属酸化物の薄膜との密着性を更に
向上せしめることもできる。

本発明の光選択透過性フィルムは基材フィ
ルムがポリアルキルメタクリレート系共重合体を
主成分とするフィルムであるため、その可視光
線に対する透過性が良好でありかつ耐候性に優
れているため長期間屋外で使用しても基材フィ
ルムの劣化が生じることなくその少なくとも
一面に設けられた金属酸化物薄膜層はその特性
を長期に渡り保持することができるなど種々の
優れた効果を奏する。

本発明の光選択透過性フィルムはその特性を
生かし種々の用途に用いることができ、例えば
金属酸化物薄膜層が内面になるように農業用温
室フィルムとして用いる場合には太陽光線をほ
ぼ透過すると共に内部からの放熱を防ぐことが
でき植物の成育を促進することができる。また

集光系における選択透過性フィルムとして用い
る場合には上記農業用温室フィルム同様太陽光
線をほぼ透過すると共に内部からの放熱を防ぐ
ことができ太陽熱を有効に利用することができる。
さらには太陽光温水器用カバーとしても用
いることができる。

以下本発明を実施例により説明する。実施例
中部とあるのはすべて重量部である。

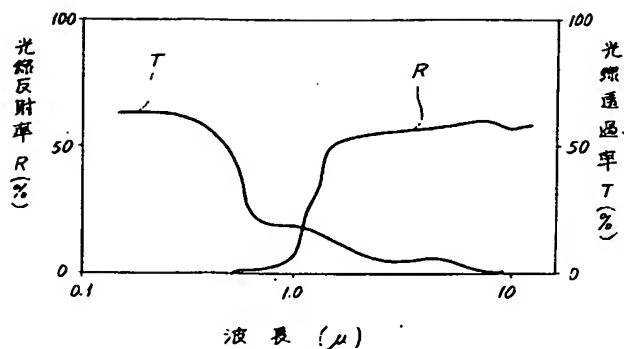
実施例 1

アクリル酸ブチル 90 部、メタクリル酸メチ
ル 10 部、ベレックス O T P (花王アトラス製
スルホサクシネート系乳化剤) 3 部及びトリア
リルシアモレート 0.5 部の混合物を十分窒素置
換したのち 70℃ に保たれた $(\text{NH}_4)_2\text{S}_2\text{O}_8$ 0.15
部を含む水溶液 200 部中に 2 時間で連続添加
し添加終了後 30 分反応を続け重合率 97% 以
上の重合体成分(A)ラテックスを得た。この重合
体成分(A)ラテックスに十分窒素置換した脱イ
オン水 600 部を加え、反応系の温度を 55℃ に
維持してロングリフト(和光純薬製ナトリウム

ホルムアルデヒドスルホキシレート) 0.30 部
(水 10 部に溶解)を反応系に添加後、パーキ
ミル P (日本油脂製ジイソプロピルベンゼンハ
イドロパーオキシドの商品名) 0.60 部、ア
クリル酸ブチル 40 部及びメタクリル酸メチル
60 部の混合溶液を 1 時間の間に徐々に加え、
添加終了後 30 分間反応系の撹拌を続けたのち
更にロングリフト 0.2 部(水 10 部に溶解)を
反応系に添加しパーキミル P 0.80 部、アクリ
ル酸ブチル 10 部、メタクリル酸メチル 190
部及びオクチルメルカプタン 0.40 部の混合溶
液を反応系を 55℃ に保ちつゝ 2 時間の間に徐
々に添加した。混合溶液の添加終了後 55℃ で
1 時間反応を続け重合反応を実質的に完結させ
た。得られたラテックスを常法により塩析し重
合体生成物をろ過洗浄後、十分に乾燥して押出
機によりベレット化した。得られたベレットを
インフレーション法にて厚さ 75μ のフィルム
に成形した。このフィルムの全光線透過率は 92
% であつた。このフィルムを 50mm × 50mm に

切り取り日本電子製JEE-C型真空蒸着装置により金属錫(アンチモン1%含有)を真空度 5×10^{-3} mmHg下で真空蒸着し平均蒸着膜厚さ 90 \AA の蒸着フィルムを得た。この蒸着フィルムを陽極とし、硝酸ソーダ10%水溶液1ℓ、硝酸20mlを混合した混合溶液中で50℃において電流密度 2 A/dm^2 で電解酸化を行ない酸化錫薄膜を得た。

上記の如くして得た酸化錫薄膜層を有するフィルムの各波長における光線反射率及び光線透過率を測定した結果を図に示す。図中曲線Rは光線反射率を、曲線Tは光線透過率をそれぞれ示すものである。



4 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例の各波長における光線反射率と光線透過率を示す特性図である。

特許出願人 三菱レイヨン株式会社

代理人 弁細士 吉沢敏夫

4 前記以外の発明者

広島県大竹市立戸2丁目11の29

中野 恒太郎

広島県大竹市黒川3丁目3の1

藤 苗 久 義